

## 鎌倉市教育委員会 令和元年12月臨時会会議録

○日時 令和元年（2019年）12月26日（木）  
15時54分開会 16時19分閉会

○場所 鎌倉市役所 講堂

○出席委員 安良岡教育長、齋藤委員、山田委員、下平委員

○傍聴者 0人

○本日審議を行った案件

日程1 協議事項

鎌倉市にふさわしい博物館基本構想（素案）について

### 安良岡教育長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより12月臨時会を開会する。朝比奈委員から、本日所用のため会議に出席できない旨の届け出があったので、報告する。本日の会議録署名を、下平委員にお願いする。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりである。なお、配付した資料1「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想（素案）」及び資料2「素案概要」については、臨時会終了後に事務局にて回収するのでよろしくお願いする。では、日程に従い議事を進める。

### 1 協議事項 鎌倉市にふさわしい博物館基本構想（素案）について

#### 安良岡教育長

日程1、協議事項に入る。「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想（素案）について」を協議する。協議内容の説明をお願いする。

#### 歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部次長

日程1、協議事項の「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想（素案）について」説明する。

本年3月の第1回鎌倉市にふさわしい博物館基本構想検討委員会の開催後、10月までに3回の検討委員会を実施し、鎌倉市にふさわしい基本構想（素案）を作成した。鎌倉市にふさわしい博物館基本構想を資料1、その概要をまとめたものを資料2として、お手元に配付させていただいている。

資料2、「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想（素案）」の概要をご覧いただきたい。構成として、第1章 基本構想策定に向けてから第5章 今後の事業推進に向けてまでの五つの章となっている。第1章 基本構想策定に向けての中では、1 鎌倉市を取り巻く現況、2 これまでの博物館計画と既存施設、3 本構想策定の必要性と目的についてを。第2章 基

本的な考え方かたでは、1 「鎌倉市にふさわしい博物館」の基本理念、2 「鎌倉市にふさわしい博物館」の使命、3 「鎌倉市にふさわしい博物館」の機能とめざす姿、4 「鎌倉市にふさわしい博物館」の事業活動の重点について、記載している。この第2章では、2 「鎌倉市にふさわしい博物館」の使命の(3)、「歴史的遺産と共生するまちづくり」を推進するためエコミュージアムの考え方を導入するという点と、3 「鎌倉市にふさわしい博物館」の機能とめざす姿、(2) エコミュージアムを構築し、行政と市民の協力関係による運営を行うということが、重要な点となっているところである。

続いて、第3章 「鎌倉市にふさわしい博物館」の具体的なあり方として、1 「鎌倉市にふさわしい博物館」の組織と機能、2 施設整備、3 エコミュージアムの考え方の導入、4 管理運営体制についてを、記載している。ここでは、1 「鎌倉市にふさわしい博物館」の組織と機能の中の(1) 組織の将来的な総合博物館建物の建設は望まれるが、当面は新たな博物館用の大規模な建物を建設せず、既存施設の強化と市内に点在する遺産の現地での効果的な活用・保存を目指すというところ。それから、2 施設整備の(1)、博物館の調査研究機能及び保管機能の充足、エコミュージアムのガイダンス施設とすること等を目的として扇ガ谷一丁目用地、これは歴史文化交流館の導入路の脇にある空いている土地で、ここに必要最小限の建物を建築することを検討する、というところが重要なところになる。

次に、第4章 事業活動として、1 収集機能、2 保管機能、3 調査研究機能、4 教育普及機能、5 ガイダンス機能についてを、第5章として、今後の事業推進に向けて、1 今後の課題、2 事業スケールについて記載している。以上が基本構想の内容である。

今後の予定だが、現在12月20日から1月6日までの間になるが、意見募集を庁内に行っており、今後、年を明けての政策会議、その後パブリックコメントを実施する予定となっている。その後、令和2年2月市議会定例会教育こどもみらい常任委員会で報告していく予定としており、その後第4回鎌倉市にふさわしい博物館基本構想検討委員会等を開催し、決裁により、鎌倉市にふさわしい博物館基本構想を確定させてまいりたいと考えている。

本日はこの基本構想素案をご確認いただき、内容についてのご協議をお願いするところである。なお、急なお願いで申し訳ないが、本日以降、パブリックコメントの最終日を予定している2月13日頃までにご意見等頂戴できればと思っている。

(質問・意見)

## 安良岡教育長

9ページと14ページに図があるのだが、このあたりで補足して説明していただくと分かりやすいと思う。

## 文化財部長

先ほど、次長から扇ガ谷一丁目用地に必要な最小限の建物ということで説明したが、場所がどこなのかという疑問にお答えしようということで10ページに地図を載せてある。交流館の道を挟んだ手前側というか、その右側というか、その空き地にとということである。

それから9ページの図だが、エコミュージアムの図も14ページにあるが、要素としてはガイダンス機能だとか展示だとか、そういうものを従来の博物館施設をコア施設として位置

付け、ある一定の地域に点在している史跡だとか、文化的あるいは自然遺産とか、そういったものをサテライト、衛星として、それを有機的に結び付けて、そのエリア全体を博物館と捉えようという、それがエコミュージアムの発想であり、その概念図というか、鎌倉で作ったらこのような形になるのではないかということで、ただ鎌倉の場合はお寺の協力も得なくてはいけないというものがあるので、下に協力ということで書かせていただいた。9ページについては、その中でコア、中核施設となる博物館の施設をどのように作っていったらよいのかということで、先ほど新たな建物を作って「新博物館」のようにしていくのではなく、国宝館と歴史文化交流館という二つの既存の施設、これを有機的に結びつけて、機能強化をしながらコアとしていく。場合によっては、埋蔵文化財センターの機能だとか、美術館、これは新庁舎に移転していった時に現庁舎をどのようにしていくかということについて今後検討していく訳だが、その中の一つの発想として美術館的な機能もということもあるので、もしそうなった場合には、そういったところも含めてコアにしていったらどうだろうか、というのが組織面での検討。この組織で担う機能としては、博物館の機能として右側に書かせていただいたが、このような、博物館として教育普及だとか収集だとか保管、調査研究、そしてさらには埋蔵文化財センター的な機能も付加していけないかというあたりをイメージした図だということで、ご理解いただければと思っている。

#### 下平委員

先ほど今後の予定を伺ったが、最終的にこれが公表されるようになるのは、いつ頃を目指しているのか。パブリックコメントをいただくには、素案を出すのだと思うのであるが、最終的にそれが実際動き始めるのは、だいたいいつ頃なのか。

#### 歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部次長

2月の定例会で報告、こういったパブリックコメントでのご意見があつてということで、そこでは当然お出しするので、ある程度まとまったものが公表される。その後、決裁にて最終確定するというので、それは年度内を目標にしている。

#### 下平委員

例えば先ほど、ちょうど総合教育会議の中で、鎌倉ならではの地域を生かした教育といった項目を入れようかという話し合いになったので、ちょうどよいタイミングとしてエコミュージアムを生かした教育というようになってほしいかと思う。そこの絡みも考えていくとよいかもしれない。

#### 文化財部長

まさに、我々としても時宜を得たことになるかと思うのだが、実はこの検討委員会の中に小学校の校長会、中学校の校長会から1名ずつ代表に加わっていただいて、エコミュージアムの、特にディスカバリートレイルという、コアとサテライトを結び付ける、これは作るのではなくて要は設定するものなのだが、その設定のときと運営に関しては、地域の子供たちが学習できる、そういう意味合いも強く持たせていこうと。そうすることによってまた、より有機的にエコミュージアムの考え方が鎌倉の域内に浸透するのではないかという意見も

出ており、まさにそういった観点を持ってやっていきたいというのが我々の本命でもあるので、ぜひそこは結び付けてやっていきたいと思う。

#### 下平委員

学校もそういうのを、今後教材にして生かしていきたいが、学校だけではなくて市民全体が鎌倉のよさをもっとコンパクトに、そういうシステムが今もあるのだろうが、例えば何万歩歩いたらというラリーがあったりとかしているが、そういう仕掛けがいっぱいあって、お歳を召した方でも、今日はこのポイント、このルートを周ってみようというような、鎌倉のよさをいろいろ体験できるような、そんな仕掛けがいろいろできたら面白いと思う。

#### 齋藤委員

子どもたちの学習の場を考えてというのはとてもよいことだと思うのだが、歴史文化交流館は、子どもたちが集まって来たときに何かができる場がないと思う。例えば、お弁当を食べるとかは無理ではないかと。それを考えていったときに、この広さでは、また無理である。なので、学習に来て、見学して、学んで、帰るというゆとりはないと思う。そこまでは考えていないのではないか。

#### 安良岡教育長

このくらいの学習室があって、講義も受けられるし、お弁当も食べられないかということか。

#### 齋藤委員

そんなことは努々考えていないと、無理だと即答で言ってくださってよいのだが。

#### 下平委員

今後、それも先ほど少し仰ったが、市庁舎を美術館みたいに、新しくできたらそういうことをぜひ取り入れてほしい。

#### 文化財部長

無理だと即答するのは簡単なのだが、それはやはり先生が仰るような要望というのはかなりいろいろなところから寄せられるというのが現実である。先ほど、詳しくはお話しなかったのだが、資料2の概要の最後の事業スケジュールのところ、2ページの一番下を見ていただくと、令和2年度、令和3年度、この2か年度をかけて基本計画実施計画という、基本構想に基づいた具体的な形を作っていくので、その中でいろいろな要望を寄せられていることも踏まえて、何かできないかなと。スペース的には、交流館は実はあるのである。ただ、地域住民への配慮といったことで、お弁当を食べさせないということになっているのだが、そういったところも含めて検討はしていきたい。必要性はあるとは考えているのだが、なかなか地域の方々のご理解というところがついてこない。

#### 下平委員

それと、発見の小径、ディスカバリートレイルという言葉が出てくるのだが、これはトレイルという競技があるのだが、それとは全然違う、要は小径としてトレイルと言っているというところでもよろしいか。

#### 文化財部長

仰るとおりで、競技ではなく「小径」という意味で、それで「発見の小径」という和訳をしているということである。

#### 下平委員

トレイルファンが飛びついて、走れるのではないかと思ったりもする気がした。

#### 山田委員

そうすると簡潔に言うとサテライト施設が一つできて、そこに鎌倉市にはこういうものがあるというご案内機能があって、そしてそれぞれの社寺だとか文化施設への案内や地図のようなものがあるのか。結ぶというのは具体的に、今も各文化施設は、公開や受け入れをしているわけで、具体的にどう変わるのか分からないので教えていただきたい。この事業を立ち上げることによって、例えばどのように変わるのか、大きなところだけでもよいので教えていただきたい。

#### 文化財部長

具体的なディスカバリートレイルの設定の仕方というのは、まさに基本計画実施計画になって、次の段階で具体化していこうと思っている。イメージでお話すると、サテライトというのは仰ったように、社寺であったり、史跡であったり鎌倉市内に展開しているいろいろな文化的な要素、自然的な要素というものである。それを現地で保存しながら見ていただくこと、これを我々は展示と言っているのだが、展示をしている。そういういくつもあるサテライトを、ある意味散策路と言った方がよいかもしいないが、Aコースの散策路、Bコースの散策路、これでつなぎ合わせることで、これがディスカバリートレイルの設定となっている。まさに案内機能だとか、その案内も行き方だけではなく、こういう群れがどういう意味合いをなしているかといった学術的な案内ももちろんしなければならないので、それをするコア施設として今考えているのが歴史文化交流館と国宝館ということで、これを丸ごと博物館と捉えていくという考え方で、Aコース、Bコース、Cコースというのは、今後具体化して考えていきたいと考えている。

#### 山田委員

そうすると、その中で国宝館と新しい歴史文化交流館の建物というのは、ご案内をする場所なのか。それともアプリか何かでつながっていてAコースを選ぶとそこの説明が出てくるなり、音声ガイドが出てくるといったような感じで、バーチャルに行われるのか。そうすると、国宝館というのは何をするのかというのが見えないのだが、サテライトになるところがどのような役割を果たすのかを教えていただきたい。

## 文化財部長

当然ながら今までの博物館活動というのは継続して展覧会等はやっていくのだが、そこに新たな機能として委員が仰ったように案内機能、鎌倉のエコミュージアムはこのようになっている、それを堪能していただくにはこういうコースを行っていただくとよいというような案内機能はもちろん付加されると思う。それプラス、この塊がどういう歴史的な意義、学術的な意義を持っているのかということもガイダンスということで、現地案内だけではなく、学術的な案内もしていくというような機能を新たに付加するというで、その役割をコアとして、国宝館と交流館に果たさせるということになるかと思う。

## 安良岡教育長

15 ページにある調査研究機能というのがもう一つで、これをここでできればと思う。あと、17 ページの(2)のところ、MLA 連携と書いてあって、なかなか聞いたことがないのだが、盛んに今これも言われていることで、部長から少し説明をお願いします。

## 文化財部長

MLA というのはまさに頭文字をとって Museum、Library、Archives ということで、ここ数年内閣府を中心に国立国会図書館といったところのデジタルデータをいろいろと結びつけていくと、これに文科省等が新たに加わって、そういうデジタルデータでいろいろなものを結びつけて発信して、利活用にも供するというで、そのシステムに簡単にアクセスできると言われるのだが、それをどのように活用、運用していくかというあたりも今後の計画の中で研究して取り組んでいければと考えている。とにかく Museum、Library、Archives という博物館、図書館、文書館ということになるかと思うが、こういった施設が連携をしてデジタルデータ化したデータを活用していくという仕組みだどご理解していただければと思う。

## 安良岡教育長

山田委員が言われたように、サテライトに行って、それを調べたら出てくるとなれば一番である。

## 下平委員

できるだけいろいろな人にヒットするよう発信ができればよい。今、旅行などでも自分の好みで、例えば美味しいものを食べ歩きながら回れるコースはこのコースとか、頼朝のゆかりの地だけを回るのはこのコースとか、有名な故人のお墓を巡るのであればこのコースとか。具体的に、おそらくそういうことを最終的に考えているのだろうが、できるだけいろいろな人の琴線に触れるようなコースがあると、いろいろな年代のいろいろな人が遊びに来てくれるような気がする。

## 山田委員

それであれば、デジタル上で全部完結できる。サテライト建物が必要なのかと思う。それを作ることに反対ということではないし、できるならよいし、あそこにアーカイブ機能や研究機能がすごく必要だと思うのだが、人を置くとまた管理も大変だし、いろいろな人が教え

てほしいと来てしまうと大変ではないかと想像する。

#### 文化財部長

道案内というかルート案内については電子データの中でできると思うのだが、コア施設の博物館としての側面を考えたときに、学術的なガイダンスをする際に実物の資料を博物館が持って展示しているので、そこで強みを発揮できると我々は考えている。

#### 安良岡教育長

もし何かあれば、事務局を通して連絡すればよいか。

#### 歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部長

事務局を通してか、直接でも構わない。

#### 安良岡教育長

ご意見があればよろしく願います。

#### 下平委員

この資料はお返すのであったか。

#### 山田委員

持って帰らないと、読めないのだが。

#### 文化財部長

回収と教育長に言ってはいただいたのだが取扱注意で、年明けの1月15日からパブコメを予定しているので、それまでは慎重にお願いしたい。

#### 安良岡教育長

では部外秘ということで、各委員で保管をお願いします。

(協議事項「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想(素案)について」は、同意された)

#### 安良岡教育長

それでは、以上で本日の日程は全て終了した。これをもって12月臨時会は閉会する。